



2012

キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2012

第4回講座
講義資料

函館のまちで育つ子どもたち

— あたたかな人々に支えられて —

毛利 悦子 函館大谷短期大学 准教授

日時：平成 24 年 9 月 29 日（土）午後 1:30 ～ 3:00

会場：函館大谷短期大学

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

もうり えつこ

毛利悦子氏 函館大谷短期大学 准教授

昭和23年函館市生まれ。函館西高校、函館保育専門学院 卒業

昭和43年 函館市立函館幼稚園 教諭

昭和53年 函館市立松風幼稚園 教頭

昭和63年 函館市立函館幼稚園 教頭

平成8年 函館市立日吉幼稚園 園長

平成14年 函館市立函館幼稚園 園長

平成15年 函館市立はこだて幼稚園 園長

平成20年より現職

国際幼児教育学会 所属

受賞歴

平成16年2月10日 渡島管内教育実践表彰

平成17年2月8日 北海道教育実践表彰

論文

○「5歳児の活動力を高める援助の在り方について」

1997,3北海道教育大学函館学校教育学会誌第2号

○「子供の発達を促す環境の在り方について」

1993,3北海道教育大学函館学校教育学会誌第4号

他

公職

函館市幼稚園協会 常任理事、事務局長 (S,63～) 会長(h,14～19)

道南地区幼稚園・保育所放送教育研究会 事務局長 (S,63～) 会長(h,14～19)

北海道幼児放送教育研究会理事(h,14～19)

全国幼稚園教育研究協議会常任理事(h,10～19)



- I 幼稚園教育の変遷
- II 幼稚園ってどんなところ
- III 幼児教育の現状と課題
- IV 課題解決のための実践より

- 1) “みつけようしべよう”
~ 函館の豊かな自然との触れ合いを通して~
- 2) “やさしいこといっぱい”
~ 函館の温かな人々とのつながりを通して~
- V 子どもたちにはぐくまれたこと

資料1

I 幼稚園教育の変遷

1. 日本の幼稚園教育の始まり ~大正・昭和~

明治5年	学制公布 小学校の一種として「幼稚小学」が「幼稚小学ハ甲女子第六歳迄ノモノ小学ニ入ル前ノ端緒ヲ教ルナリ」(第二十二章)と規定された。
明治8年12月	京都上京第三十区第二十七番組小学校(後の柳池小学校、現在の京都市立柳池中学校)に「幼稚遊嬉場」(ようちゆうきじょう)開設。フレーベルのキンダー・ガルテンに倣って、官民一致で設けられたものであるが、1年半しか存続しなかった。
明治9年	東京女子師範学校附属幼稚園開設。 キンダー・ガルテンの訳語として「幼稚園」を最初に名乗った。 今もお茶の水女子大学附属幼稚園として存続する。
明治12年4月	鹿兒島女子師範学校附属幼稚園を開園。 東京女子師範学校附属幼稚園より日本人保姆第一号とされる豊田英雄を招聘して開設する。
大正15年4月	幼稚園令制定

◆函館の幼稚園教育の始まり

- 明治16年6月 函館師範学校内に仮幼稚園が設けられる
仮幼稚園長 素木袖雲(しろきちゅううん)
保母武藤八千 幼児20名
- 明治20年6月 私立函館学校内に校主、素木袖雲が幼稚園を創設。
私立函館幼稚園と称する。
- 明治11年6月 武藤八千が引き継ぎ、庁立函館商業学校内に同名の幼稚園を
開設
- 明治22年2月 火災のため、元町の函館英語女学校内に再開
明治22年7月 私立函館学校が廃校となり、7月に函館女学校が開設される
と共に幼稚園も移転し、開園。その後、度重なる火災などを歴て
転々とする。継続しようとする武藤の教育理念(ドイツフレーベ
ルの精神を導入)は強く明治36年頃まで続いた。
- 明治28年10月 (学) 道愛学園 道愛幼稚園開設

◆函館幼稚園の沿革より

- 明治41年1月 仲山與七、名井勝次郎、信濃助治、大條敬吉等が協力し、
私立函館幼稚園開設
- 昭和7年9月 二代目信濃俊一より事業経営の一切を愛国婦人会函館支部
に贈与、名称を愛国婦人会函館幼稚園とする。
- 昭和9年3月 函館大火のため焼失
昭和11年9月 新園舎移転する
昭和12年7月 旭町3の2番地に新築落成(平成15年3月まで)
- 昭和18年3月 愛国婦人会函館支部より函館市に経営の一切を移す。
北海道初の公立幼稚園誕生。
- 昭和20年6月28日 大東亞戦時対策として疎開のため休園措置をとる
昭和20年8月27日 休園をとき始業
- 平成15年4月1日 函館市立松風幼稚園と統合し、千歳町に新築移転。
函館市立はこだて幼稚園開園。

「一世紀のあゆみ」

函館幼稚園創立の方々

◇…………… 函館幼稚園は、四名の方の協力で設立され、その名前は記録されているが、
 ◇…………… どんな人物かわからなかった。今回、協力を得て、その略歴が少しわかりまとめ
 ◇…………… てみた。

仲山 与七氏（なかやま よしち）

安政六年（一八五九年） 羽後国南秋田郡岩城村に生まれた。十五歳で両親を失い、貧困の生活を送っていたが、明治十三年渡道し函館で人力車夫となる。後、独立し遊来町で人力車業を営む。若い頃の困窮が社会事業に関心を向けさせた。慈恵院（現在の厚生院の前身）の創立に参画した他、無料宿泊所等数多く慈善事業を行った。大正十三年七月二十七日没。家族・子孫の方々の消息は不明です。

（函館厚生院史より抜粋）

大 條 敬 吉氏（おおえだ けいきち）

明治三十年代頃より、会所町（現在の元町あたり）で歯科医を開業していた。会所町は、当時の繁華街の故か、医院は相当繁昌し、多額納税者に与えられた選挙権を持っていた。大正年代になってから、歯科医師会長を務められたり、実力者であったようである。

（函館歯科医師会史より抜粋）

信 濃 助 治氏（しなの すけじ）

長崎県で出生され、函館に移られました。当初、号外屋をしていました（台町葛地に赤い墓石が立って、天下の号外やと跡があります。）後、松風町（成田山の向いあたり）で牛乳屋を開業し、赤い陣羽織に、赤い車で走り歩き、函館の名物男と称されました。社会慈善にも大きな貢献をされたようです。昭和七年頃、亡くなる。

名 井 勝次郎氏（みやうい かつじろう）

明治元年頃函館で出生され、トラピスチヌ女子修道院の近くで、広く牧場を持ち、乳牛を飼い牛乳を生産していた。当時、牛乳はすべて宅配されていたため、交通の便が悪く、東雲町で同じく牧場を持ち、牛乳を生産していた。大正六年頃亡くなる。五十歳。

※函館市立函館幼稚園創立八十周年記念誌より

函館教育会雑誌

◎幼稚園ノ落成式

仲山貞七、名井勝太郎、信濃助治の三氏が發起し区内有志の寄附を仰ぎて設立せる函館幼稚園は東川小學校隣地に新築し竣工したるを以て七月十七日午後七時其落成式を致し開校の式を舉行せり、午後七時發起人の挨拶、諸般の報告をなし來賓中山田區長、能登軍會議員、神崎係員の演説、佐藤、若松小學校長の祝辭、發起總代として名井勝太郎氏の答辭あり奏樂の間に式を終り東川小學校運動場にて茶派を饗せり來賓は龍岡文福長、山田區長、岡田警察署長、内山水上署長及各學校長等七十餘名にて頗る盛況なりき當日發起總代の朗讀したる答辭左の如し

答 辭

不肖發起人等は諸君の知らず、如く元労働に依りて身と起し、者なれば労働者に向つて比較的多くの同情を寄せ労働に對して少からぬ趣味を有するゆゑもべからざる所なり之れ不肖等の幼稚園を肇めたる脚の根據なり

本園當初の見込は労働者の子弟を預りて之を收容し彼等の父兄労働に従事する間市街に放逐せられて徒らに悪習に浸染するは所謂人の子を賊ふものなれば之を救はんとして傍ら労働者をして心を安じて其業務に従事せしめんとする深意に外ならずしも單に彼等を預りて遊戯の危険を豫防し悪風の影響を防ぐが如き消極的のものならんよりは寧ろ進んで悪風を救へ父母家庭に代りて善良なる域に慣れしむる積極的の幼稚園事業を加味せんにはと念決心の時を固めて区内松風町の一階風に事業を開始したるは實に昨年秋なりき然るに開園間もなく園舎忽ち破産を告ぐるの盛況を呈するに至り不肖等私心に精すること能はず一層の奮勵心を加へて斯業を擴張せんと志し園舎の新築移轉を企てたるに幸に大方善侯家各位の御賛同を蒙り今日貴覽に供せし如き新園舎を竣工して落成式を屏ぐるに至れるは實に今昔の感なくんば

而して本園の日に倍盛感となり來れるは聊か時勢の要求に應じたるの傾あるに由るべきも亦諸君の厚き同情を寄せられたるにあらずんば其ノ今日に到らざりしは多量を費すまでもなし殊に只今は種々有益なる祝辭と訓辭とを蒙りたるは或辨措く能はざる處なり今後尚ほ本園設立の目的と遂ぐるまでは幾多の困難に遭遇すべきは豫め覺悟し居る所なるも希くは倍舊の眷顧と垂れられ不肖等の初一念を達せしめられんことを切に冀望を陳して答辭とす

明治四十年七月十七日

函館幼稚園創立發起人總代

名井勝太郎
仲山貞七
信濃助治
大橋 敏吉

～函館市立函館幼稚園閉園記念誌より～

第三十四週						十二月 九日 金曜日	
保育豫定案						観察時	
談話	手工	手技	運動	遊戯	唱歌	観察	その他
才三時限 紙芝居……荒勢馬場撃成	才二時限 塗絵……三月の出席カード <small>未の朝王能いゆ 才二時限は行書場 才三時限は 才二時限は</small>	才一時限 遊戯……海老と民……才三時限新技	才一時限	才一時限	才一時限	才三時限 塗絵……三月の出席カードと塗絵……才三時限は行書場……才三時限は	才三時限 紙芝居……荒勢馬場撃成
男計 出 24 入 16 欠 40	才一時限 遊戯	才三時限 塗絵	才三時限 遊戯	才三時限 遊戯	才三時限 遊戯	才三時限 塗絵	才三時限 紙芝居

～ 函館市立函館幼稚園昭和18年度保育日誌より～

昭和四年度保育日誌より

其の他	観察	唱歌	遊 運 戯 動	手 手 工 技	談 話	第 一 週 保 育 豫 定 案 月 〇 日 火 曜 日	気 象 予 報 等 保 育 日 誌 附 一 研 究 事 項
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>							<p>...</p>

東京 日本保育館謹製

保育の歴史

～ 函館市立函館幼稚園昭和18年度保育日誌より～

親子四世代お世話になつて

第十九回 修了生（昭和九年産）

私の宝物の一つ、それはセピア色に変色してしまつた幼稚園の卒園写真一人見知りの激しかったらしい私が、着慣れないはかま姿で祈願です。

当時の幼稚園は、今の東田町界隈で教室は二つ三つよりなかつたといふ位でその他の事は悲しいかな全然記憶に残っておりませんのに、卒園式の何日か後だったのであろうあの昭和九年の猛火の事は、鮮明に覚えているのです。私の家も全焼しましたのに、よくこの写真だけ残つたと不思議に思われます。

私の家は明治生まれの父を始め、私及び妹達は云うに及ばず、私の子供達、又孫達迄四代の水い問次々と当たり前の様に両館幼稚園に入園し、その間沢山の先生方にお世話になり感謝いたしております。園名はひらかなに変わりましたが、知らなくばこの思いを代々と引き継いでほしいと思ふ今日この頃です。

古き昔の思い出

元教諭

懐かしき、旭町の両館幼稚園の閉園の報に驚いております。愛国婦人会から市に移管された時の第一号の職員でした。わずか十八才の私は何も分ならず日向園長先生、若月、大山、吉田先生等の諸先輩の御指導により、なんとか務める事が出来ました。八月に屋代園長先生が赴任されました。

その後、岡田、田井中先生達と、園児と共に楽しい毎日を送りました。リズムバンドを作り、各施設に出かけたり、小学校の先生達と童謡研究会を作り、指人形芝居、紙芝居を下手ながら各所に行った事も懐かしい思い出の一つです。諸先生方の御努力で立派な両幼となり、職員皆様の御努力を感謝申し上げます。新幼稚園となりましても、ますますの御発展を祈念申し上げます。喜寿を迎えた、老人の拙い文、お許し下さい。

一枚の写真から

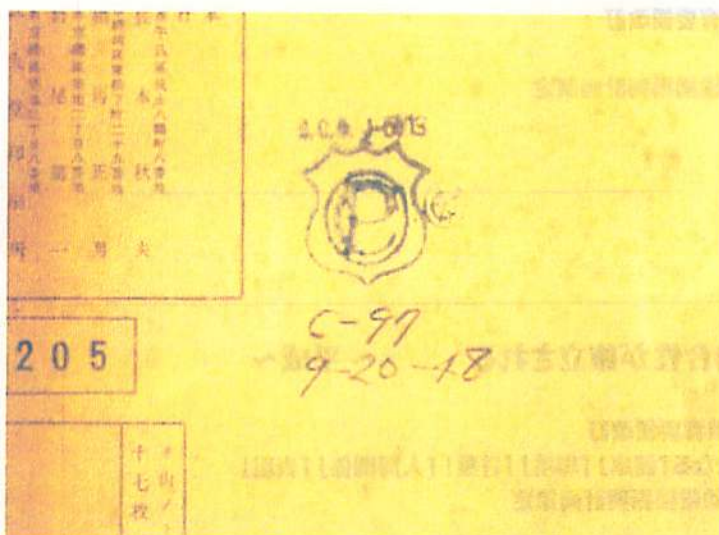
第一回 修了生
（昭和十八年産）

私は両館幼稚園の修了生ですが第一回生とは知らず驚きました。六十年も前の事ですものね。改めて我が家にあるその頃の写真を出して眺めているうちに段々と思ひ出してきました。入園は昭和十七年、愛国婦人会両館幼稚園です。園に入つてすぐ二階には白い割烹着姿のたくさんのおばさん達が一生懸命にミシンを踏んでいたこと。長い廊下のむこうには一番人気の馬のメリーゴーランドがあり、人数が多くなかなか順番がまわってこないで朝早く登園したこと。園長は屋代キサ先生。着物に黒っぽい上衣を着て色足袋に草履姿でした。お遊戯室の壁には神棚があり、その左右に鼻居に二重橋の写真と口の丸の写真が額に入つて飾られていました。修了式の記念写真には一九九名のかわい子子供達と並んで写っています。私はこの写真を見るたびに一日休んだために皆勤のお友達の様には修了証を上げて写す事が出来ず、ご褒美の紙製の赤い筆箱に巻いて写つてお出されま。昭和十九年春、市立になりました。

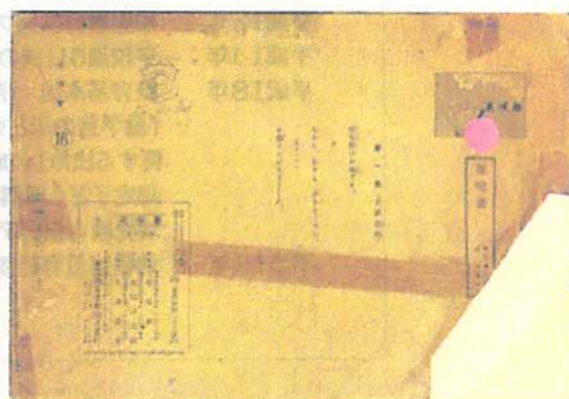
GHQの検閲を受け戻ってきた紙芝居



タイトル「オ山ノナリダチ」が「トモダチ」に修正されている



パススタンプ



資料p7 保育日誌に記載されている「花咲爺」

資料3

2. 学校教育に位置付く ～昭和～

- 昭和22年 学校教法・教育基本法公布
幼稚園が学校教育機関として新たに発足
- 昭和23年 保育要領―幼児教育の手引き―発行
- 昭和24年 「保姆」を「教諭」と改め免許取得条件が小学校と同じになる
- 昭和31年 幼稚園設置基準制定
幼稚園教育要領を刊行はじめて6領域となる
健康」「社会」「自然」「言語」「音楽リズム」「絵画制作」
- 昭和38年 第一次幼稚園振興計画を制定
- 昭和39年 幼稚園教育要領改訂
- 昭和46年 第二次幼稚園振興計画制定

3. 幼稚園教育の総合性が確立される ～平成～

- 平成 元年 幼稚園教育要領改訂
5領域となる「健康」「環境」「言葉」「人間関係」「表現」
- 平成 3年 第三次幼稚園振興計画策定

4. 幼稚園の役割が多様化する ～平成～

- 平成10年 幼稚園教育要領改訂
- 平成13年 幼児教育振興プログラム策定
- 平成14年 学校週5日制の実施
- 平成18年 教育基本法 学校教育法 等の改正
「就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に
関する法律」の成立
認定子ども園制度新設
幼児教育振興アクションプログラム策定
- 平成19年 幼稚園教育要領改訂

改正教育基本法より

(家庭教育)

第10条 父母その他の保護者は、子の教育について第一次的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するための必要な施策

(幼児期の教育)

第11条 幼児期の教育は、生涯にわたる人格の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によってその振興に努めなければならない。

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

5. 教育内容の変遷

◇明治9年 第一 物品科 第二 美図科 第三 知識科

※子目 20項目のほとんどが恩物

唱歌 遊嬉 談話 博物理解 体操

◇大正15年(幼稚園令)

談話 手技 遊戯 観察 唱歌

◇昭和21年(保育要領・保育項目)

見学 リズム 休息 音楽 自由遊び

お話し 絵画 製作 自然観察 健康保育

ごっこ遊び(劇遊び・人形芝居) 年中行事

◇昭和39年 (幼稚園教育要領・領域)

健康 社会 自然 言語 音楽リズム 絵画製作

◇平成 元年 幼稚園教育要領 (領域)

健康 人間関係 環境 言葉 表現

第1 幼稚園教育の基本

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

このため、教師は幼児との信頼関係を十分に築き幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。これらを踏まえ、次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

- 1 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること

2 幼児の自発的な活動としての遊びは心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。

3 幼児の発達は心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。

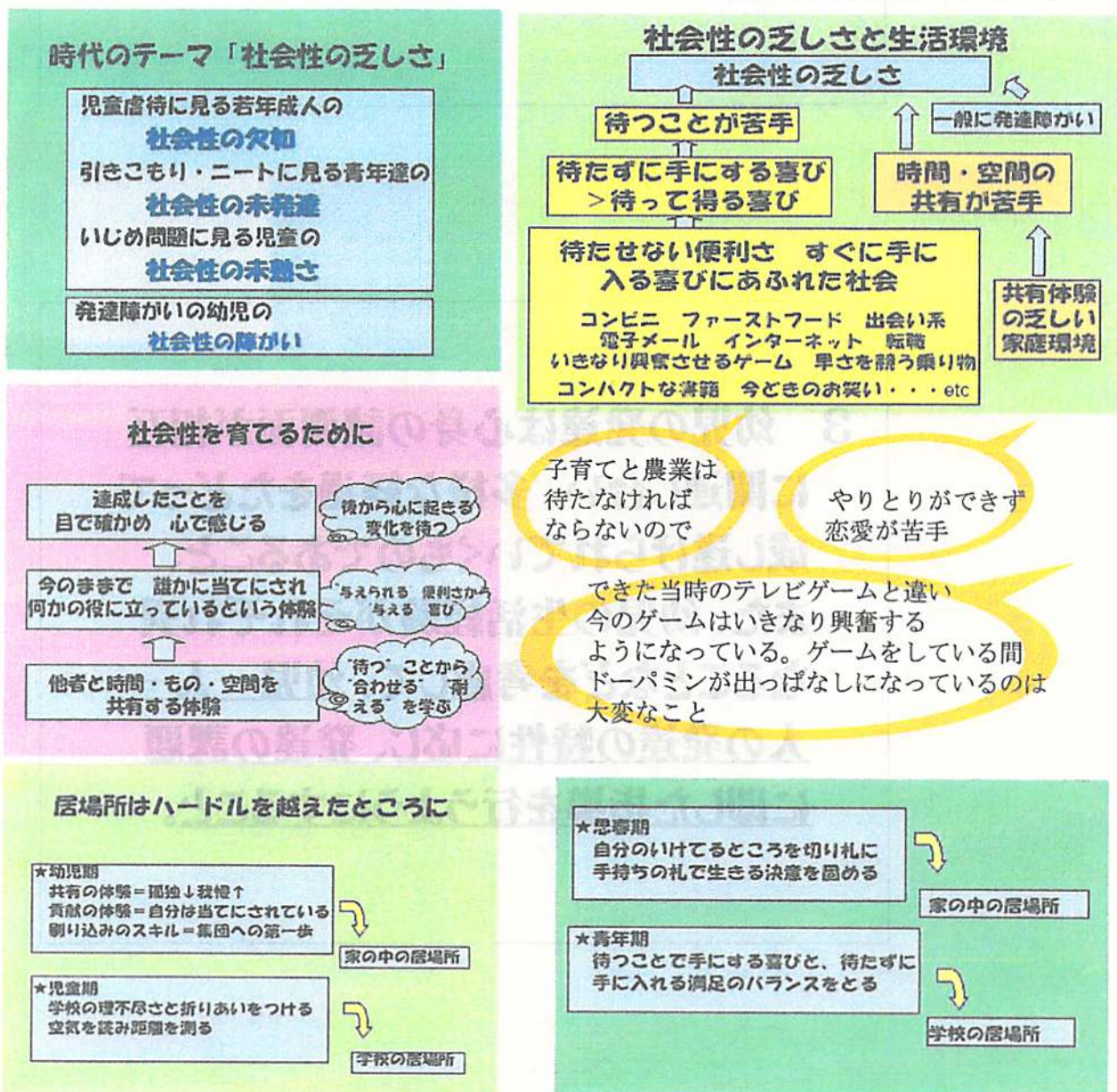
時代のテーマ「社会性の乏しさ」

PTA・父の会委員会や、父母懇談会“全体懇談”でお話しさせていただきましたが、先日、ある講演会がありました。主催者は「北海道子どもの虐待防止協会道南支部」で私の所属している“南北海道教育臨床研究会”と“北海道函館児童相談所”が共催をしました。テーマは「社会性を育てるための心の援助レシピ」講師は広島市子ども療育センター診療部長の岡田隆介先生です。

モンスターペアレントという言葉聞いたことがあるでしょうか？先日終わった函館市議会でも議員さんから質問が出ておりました。今、教育界では「子どもが変わった」「親が変わった」「社会が変わった」と言い続けられています。私も幼稚園に長く勤めていて「本当に関係性が希薄になったなあ・・・」と同じように感じています。嘆いてはいません。「変わったと感じたらそれに対応していくのが私達の仕事」と考えているからです。どんな風になってきているのか、そのことがどんな問題なのか、ご家族の皆様にお知らせし、一緒に考え合い、その上ではこだて幼稚園の教育活動を理解し、支えていただきたいと思います。

★下の図、“あたたかなつながり”の大切さを考えるヒントになりませんか？

※具体的な援助等は省略します



温かい言葉

昨年に引き続き、釜谷地区の磯浜で体験活動を行うことができました。

世界に続く海で、海と仲良く、お友だちと仲良く、小さな命を見つけよう、小さな命にふれようということをねらっています。準備は戸井幼稚園の園長先生と先生方がしてくれます。浜は漁業に携わる人の大切な生活の場所ですから、戸井漁業協同組合の配慮で遊ばせてもらえます。子ども達の活動する時間に丁度、干潮になる日を調べてもらいます。今年は大変悪く、一日延期したら、20分くらい干潮の時間がずれていました。釜谷地区の町内会や小学生が浜の清掃活動をしたそうですが、それでもすぐに、また、ゴミが打ち寄せるようで、活動日の前日、戸井幼稚園のお母さん方が清掃をして待っていただきました。

きれいな海でした。



昨年の様子をスライドで見ながら説明会

子ども達とお母さんが、感想やお礼のお手紙を書きました。温かい言葉がいっぱいです。



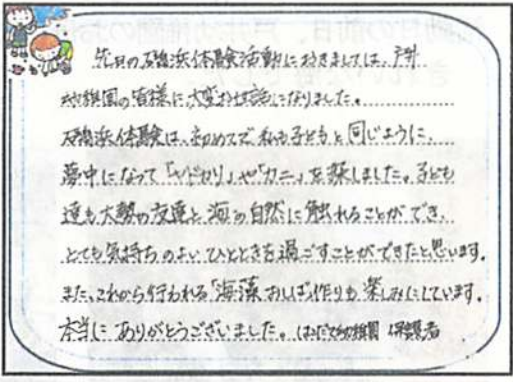
とよちえんのきもちおこたえてくれ
てくれありがとうごさほすおかげ
をまねのしいことかてましたありが
とうをいいます。とよちえんのこと
をわすれなさいでいふこととよちえんの
はあいらしいいておさあすのしい
ことがてたお。それもとよちえん
うちえのおともだちがたんだ
よ。ありがとうね



あんないしてくれてありがとう
そうじをしてくれてありがとう
またあおうね
いっしょにあそんでくれてありがとう
カニがとれてうれしかったよ
ヤドカリがとれてうれしかったよ
ツブがとれてうれしかったよ
こんどあそぼうね
なかよくしようね
はれてうれしかったよ

とよちえん

- ♥ またあえるといいね。うみをたいせつにしようね。
- ♥ かいがら ありがとう またいきたいよ
とってきってから13にちなのに かに いきているんだよ
- ♥ かいがらありがとう おてがみありがとう またいきたいね うみ
きれいにしてくれて ありがとう ようちえんのかいそうや かに げんきだよ
- ♥ またいきたいな ともだちになれて うれしかったよ といようちえんの
おかあさん おかげさまで ありがとう ございました
- ♥ また あそびに行くとき うみ まだ きれいだと いいね



～お母さんの感想・お礼状より 絵を描いてくださったお母さんもいます～

命を慈しむ心

かいと君は「おかげさまで」という言葉を使っています。お母さんは「嬉しい、いつ覚えてたんでしょう」と話してくれました。一部より紹介できませんが、温かい言葉にあふれたお手紙です。採集したカニやウミウシ、海藻などを水槽で飼ってみました。難しいかなと思いましたが、元気に生きています。海藻が餌になっているようです。Yさんも金魚の餌を入れてくれています。水が濁ってきたとき、R君のお父さんが、水槽ごと運んで新鮮な海水と取り替えてくださいました。生きていうちに海にかえした人もいました。カニを素揚げにしておいしくいただいた人もいました。世界に続く海で“お友達と仲良く”“海と仲良く”“小さな命を見つけよう”“小さな命にふれてみよう”と子ども達にねらいを話しました。相手を思いやる心、小さな命を慈しむ心、豊かな表現力がはぐくまれました。とても嬉しいです。





11月20日、JICA青年研修でタイ王国から幼稚園や保育園小学校に勤務している先生方が来園されました。20日間の研修で、受け入れ先の北海道国際交流センターから函館市の幼児教育のことについて相談にのってほしいと依頼され、国公私幼稚園、保育園、教員養成校の視察や体験、食について講義などプログラムについてお手伝いをしました。

はこだて幼稚園では教材づくりのワークショップをしてほしいとの依頼がありました。他の園は視察が多いため、幼稚園、保育所での研修初日でしたが、実際に体験してもらいました。4歳児は図書館での活動です。タイではイメージを固定するという理由からか、絵本は少なく、図書館にだけかけるということもないことでした。5歳児は、午後からのワークショップへ発展させようと考え「つくってあそぼ“のりものこうじょう”」を視聴して一緒に車を作りました。言葉がなくても“映像”があると理解してもらえると考えたからです。東京のNHKから“つくってあそぼ”他、幼稚園・保育所の番組を制作している子ども番組部の工藤俊二担当部長においでいただきました。タイではこのような番組はなく関心をもってもらいました。海外への番組提供は正規の手続きを踏むと時間がかかるので許可をいただいて、園で収録していたものをDVDにダビングしてさし上げました。

子どもたちは自然にかかわりました。4歳児は図書室で「シー 静かにするんだよ」と教えた子もいたそうです。すずらん組の子どもは楽しげに活動していました。途中でタイの青年たちに感想を聞くと「私たち、タイ語で話しているのにわかってくれる」と喜んでいました。

JICA タイ研修生がはこだて幼稚園で研修

いよいよスタートした幼児教育・保育研修。今日は、はこだて幼稚園で一日研修だ。講義の後は、子どもたちとの交流、そしてワークショップ。教材づくりにはNHK番組の担当者が東京から駆けつけた。あっという間に打ち解けて笑いが絶えない子どもたちとタイ青年たち。子どもには国境はないんだと、つくづく感じた瞬間だ。生憎の雪にちょっと寒がっていたタイ青年も、幼稚園の中では心も体もポカポカだ。あと2週間の研修。有意義なものにしたいものだ。(ムック)
～“ボラット”ホームページより～

24日と25日、和泉先生、佐藤先生たちと、大沼の国際セミナーハウスとグリーンピア大沼での宿泊ワークショップに参加しました。タイの音楽は、子どもの歌も、民族の踊りもとても静かなものでした。年に一回のお祭り“灯籠流し”ということで、色画用紙で作った灯籠に灯りをともし、一緒に踊りました。タイでは家庭でバナナの葉など利用してつくるそうです。タイでは大学が5年生で教師になるのには5年目に一年間教育実習をするそうです。たくさんお勉強をしましたが、王国で仏教の国ですが、子ども観に共通するものを感じました。民族衣装をきた女性たち、ためいきのどるほど美しかったです。

若いときに川嶋先生のお話を聞いておけば良かった。語学です。英語もロシア語も難しいのですがタイ語は音楽のように流れていき、心にも頭にも入りませんでした。勉強することの意味を

資料7

「これ汗だよ。汗をいっぱいかいたんだよ」



ひまわり組は今年度、宇賀の浦中学校の3年B組と交流活動をしています。中学生のテーマは“思いやり” ひまわり組は“やさしいこといっぱい”です。10月26日第42回北海道道徳教育研究大会函館大会で公開授業を行いました。お互いに今までの交流を通して感じたことを絵や言葉で表した手紙（花）をもちより、花咲山にその花を咲かせました。

中学生は交流を通して幼い子を慈しむ心がはぐくまれたように思います。とても穏やかな生徒達でしたが、子どもたちへの手紙や感想を読むと“可愛いな”と思うと同時に「言うことを聞かないので腹が立った」と感じたこともあったようです。それでも戸惑いや困り感を抑えて一生懸命かかわっていました。阿部校長先生、切明教頭先生はじめ宇賀の浦中学校の先生方から「学校では見せたことのない顔をしている」「素晴らしい体験」という声をいただきました。公開授業中も指導者の弓庭先生が「園長先生、見てください。あの子があんなふうに絵本を読んであげているなんて・・・学校では想像できない姿なんです。」と話してくれました。切明教頭先生から「中学生には交流の成果が表れてきているのですが幼稚園はどうなのでしょうかね？」と質問がありました。もちろん、子どもたちにも予想以上の育ちがありました。弓庭先生が大好きになりました。戸惑ったり、困ったりしながらも一生懸命と一緒に活動してくれる中学生に親しみや憧れの気持ちを持ち、感じた思いを言葉や絵で表現する力がつきました。また交流の時間の最後にお互いに感想を話すコーナーがあるのですが、たくさんの人の前ではっきり自信をもって自分の思いを話せるようになる子も増えてきました。可愛がられている、愛されていると実感できたことで、他の人を受け入れる心が広がってきていると思います。



感じたことを描いているときに保育室をのぞいたのですが、回を重ねるごとに中学校の制服がしっかり描かれるようになりました。よく見ているんですね。りのちゃんの絵には描かれている全部の人の絵の胸にハートが描いてありました。しゅうじ君は自分の絵の額をさして「これ汗だよ。いっぱい遊んだから汗かいたんだよ」と教えてくれました。

一粒の点にしか見えなかったのですが、しゅうじ君は、描きながら、この小さな丸にこんな思いを込めているんだとなあと感動しました。いつも先生方に「子どものしている行動は全部意味があるんですよ。価値があるんですよ。それを汲みとりましょう。聴きましょう」と話しあっているのですが、しゅうじ君の声に、それがどんなに大切なことであるか、再確認させられました。



ひまわり組の“やさしいこといっぱい”は、玄関の写真ファイル“楽しいこといっぱい”でお知らせしておりましたし、発表会でも子どもたち全員が「絵」「お話し」「歌」で発表しました。

嬉しいことがありました。12月のお誕生会で、りのちゃんのお母さんのお祝いのメッセージに「これからも、花咲山にやさしい花を咲かせようね・・・」とありました。お母さんは、いつも朝、玄関で「やさしくね・・」と声をかけていると外山教頭から聞いていましたがメッセージにもその思いを込めてくれました。

幼稚園と家庭が心を併せて子どもたちをはぐくむことができるって、とても嬉しいことです。

一緒に子育て

「Rちゃん、お話の先生いらしたよ。ミニカー、ないないしよわね」とお母さんがミニカーをかごに入れると、Rちゃんもかごに入れ始めました。周りにいたSちゃんやMちゃんたちも同じようにして、あっという間に片付けができました。一歳になったばかりの子どもたちです。

絵本読み語りホランディア「マッシュマロ」のIさんたちが絵本や紙芝居を語り始める時、お母さんのひざの上で食い入るように見つめています。

「かれいっこやいて ひっくりがえしてやいて むしゃむしゃむしゃ」と、手遊びも喜んでやっています。Iさんがお母さん方に、「むしゃむしゃむしゃ」と、手を口に当てると腰がい息がかかるでしょ。寒いですよわね。手が冷たいときは、お母さんが子どもたちの手を自分の口に当ててむしゃむしゃって、暖めてあげてください。私も母にそうしてもらったんですよ」と話してくれました。

お母さん方が真剣なまなこで聞いているひきの上で、お子どさんたちもIさんの顔を見て聞いています。その表

毛利悦子

情がお母さんと同じように真剣で、本立にかわいいんです。先日の自主子育てサークルの活動日のひとこまでです。

幼稚園ってどんなところかな。入園前のお母さんや子どもたちも知ってもらいたいと、活動の場を提供しています。お母さん方に、年齢に合わせて活動の工夫をしてもらっています。決まっている活動は絵本の読み語りです。

昨年、四一六カ月の赤ちゃんのいるお母さん方から「私も静かに過ごさずともで

教え授ける

たちも参加したい」と声があがったと書は「園児用の環境で大丈夫かな」と思いましたが、一回目で心配が吹き飛んでしまいました。

お母さんに抱かれて、絵本

きるようになりました。「走らない、本を出し入れする時は大きな音を立てない、話す時は小さな声で」などが身に付いてきました。友達に読んであげたり、図鑑などで興味のあるものを見つけた時は、つい声が高くなりま

すか「さあややくうな声でね。まわりを見てごらん。みんな静かに本を読んでいるでしょ」とやさやかに促すと、小さな声になります。ありがたいことにそんな様子を見て「おつ、幼稚園の子か。お利口だね」と声をかけてくださる方がいます。



でも一度では身に付きません。一つ一つ、一回一回、丁寧に教えていかなければならぬので手間がかかりますが、教えないでいて困った状況を察するより、エネルギーが少なうてしまいますよ。

(市立はこだて幼稚園長)

平成19年北海道新聞地域情報版“みなみかぜ”2009, 2, 17掲載



～自主子育てサークルでの一コマ～

温かなつながりと憧れ



函館市立はこだて幼稚園

園長 毛利悦子

「大きくなったら図書館の先生になりたいです。」五歳児のAちゃんが、三月の誕生会の自己紹介コーナーで発表しました。図書館の先生とは本園の二階にある十歳図書室で月三回絵本や紙芝居の読み語りをボランティアでしてくださっている「マシユマロ」さん選のことだそうです。たくさんのお話しが心のため込まれると、器に注がれた水がいつぱいになるとあふれだすように、子ども達の表現も豊かになってきます。五歳児のクラスでは昨年九月頃から、お話しを考え、絵本や紙芝居を創る活動が活発になり、先生に援助してもらいながらパソコンに取り入れればプロジェクトで映す映画館ごっこへと広がりました。十一月、函館市の幼稚園と小学校の連絡協議会の事前研修会や当日の保育公開で図書室で「マシユマロ」さんのお話しを楽しむ姿や、映画館ごっこなどの活動を見ていただきました。参観の小学校の校長先生からAちゃん達の遊びをみて「良い語りをたくさん聴いているからでしょうね、語りが実に上手で

すね」という声をいただきました。実はAちゃんは人前で話をするのが苦手でした。保育室では自らマイクを持ち、楽しげに取り組むけれど同じような活動でも発表会のように大勢の人の前でするときには緊張して涙声になってしまいます。そのAちゃんに、進歩する小学校の名前などに加え、将来の夢を大勢の前で話すことができたのです。

はこだて幼稚園は、四年前に統合移転、開園しました。今まで培ってきた函館市立幼稚園の教育を充実させることに加え、新しい地域で、地域の方々の交流や環境の活用を通して育つことは何かを考えながら日々の教育活動を進めてきました。千歳町会の方々は「親子が手をつないで歩く姿で町内が明るくなった」と喜んで受け入れてくださり、子ども達と一緒に花壇作り等もしてくださいます。前述の公開研では、一緒に育てた花を利用した草木染めに取り組みました。布を糸で結ぶときや解くとき、お互いに手元を見合う、染め上がり喜び合う、ほのほのとし

たふれあいがありました。又、毎週お母様方の「子育てトーク」の場をサポートして下さるボランティアグループ、安心な生活のワークショップをして下さるグループ、箏やピアノ、和太鼓など演奏者の方々、近隣の小中学校、隣のNHK函館放送局とキャラクター「彩」で出会う方々等、たくさんの方々に心豊かで、安心な生活を支えていただき、つながりが深まってきました。

出会う方々は皆、温かく真摯に子ども達や保護者に語りかけ、活動を手伝ってくださいます。有り難いことに「私達が子どもや若いお母さん方から学ぶんです」という姿勢でかわってくださいます。

お陰様で保護者も「喜び合う・学び合う・支え合う」をキーワードに、園に足を運び、手間を厭わず、みんなのために活動を進めてくれており、そのことが園の風土として根付いてきました。「やさしいな」「あんなふうになりたいな」「あんなことしてみたいな」。温かく心豊かなふれあいは五感を通して、子ども達の心に響き、憧れの気持ちをもたらし、芸術や文化の絶対的な価値観をほぐくみ、生き方のモデルとなつていきます。

Aちゃんの「図書館の先生になりたい」という言葉は、憧れが生きる意欲につながっていったものと考えます。

これからも、皆様のお力をお借りし、子ども達が将来、生きていくために必要な力の「根」をしっかりと、はぐくんできていきたいと考えています。

「小さな親切」運動函館支部だよりNO56号 2007, 3, 25 掲載



父母と先生の会文化部による絵本整備（毎月1回）

序

自ら育つものを育たせようとする心
それが育ての心である。世にこんな楽しい心が
あろうか。それは明るい世界である。温かい
世界である。育つものと育てるものが
互いの結びつきに於て、相楽しんでいる心である。
育ての心。そこには何の強要もない。
無理もない。育つものの偉大な力を信頼し
敬重して、その発達に導いて育てる。
遂げしめようとする。役目でもなく
義務でもなく、誰の心にも動く真情である。
しかも、この真情が最も深く働くのは親である。
次いで幼き子等の教育者である。
そこには抱く我が子の生育がある。
日々に相触るる子等の生活がある。
斯うも自ら育とうとするものを前にして
育てずしてはいられない心
それが親と教育者の最も貴い育ての心である。
それにしても育ての心は相手を育てるばかりではない
それによつて自分の育てられてゆくのである。
我が子を育てて自ら育つ親
子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。
育ての心は子どものためばかりではない。
親と教育者を育てる心である。 略

倉橋惣三 「育ての心」より

